

歯科放射線診断科卒直後研修プログラム 2020年度

(2019年04月01日)

研修プログラムの概要: 本プログラムではNPO法人日本歯科放射線学会の認定医の取得を目標としています。認定医を取得するには日本歯科放射線学会が定めた認定申請資格を有する必要があります。この研修では歯科放射線学会認定医として必要なX線の取り扱いおよび画像診断に関する知識および技能を修得します。

取得可能な認定医・専門医資格: 歯科放射線認定医(NPO法人日本歯科放射線学会)

歯科放射線認定医の申請資格(抜粋)

学会の正会員として2年以上継続した者

学会の認定する研修期間で、常勤あるいは非常勤歯科医として2年以上研修を受けた者

(1)歯科放射線に関連する学会発表を筆頭演者として行う、あるいは学術論文を筆頭著者として1編以上発表する。

(2)画像診断業務に従事し、読影報告書50例以上(うち、20例以上は筆頭報告者)報告書を作成する。

(3)2号に示した読影報告書には造影・CT・MRI・RIを含むこと。

(3)放射線の物理的性質、人体の影響、安全取り扱いと管理技術、及び関連する法令などの研修を受ける。

なお、歯科放射線認定医を取得後3年、通算5年以上学会に在籍し、所定の実績を残した者は、歯科放射線専門医試験の申請資格が発生する。

| 月日 | 研修目的 | 研修内容 | 具体的な研修ノルマ | 備考 |
|------|--|---------------------------------|-----------------|----------------------|
| 4～5月 | 歯科放射線診断科の業務の概要を把握し、歯科放射線医の役割を認識する。 | パノラマX線撮影の画像診断報告書を作成する。 | 以降月50件以上 | NPO法人日本歯科放射線学会に入会する。 |
| | | 科内の勉強会、症例検討会に参加し、放射線全般の知識を収集する。 | 以降月4回以上 | |
| | | | | |
| | | | | |
| 6～7月 | 専門学会に参加する。 患者に対するX線検査を実施する。 診療科の通常業務を行う。 | 学会で得た知識を発表する。 | 10分程度のプレゼンテーション | |
| | | 指導医とともにパノラマX線撮影を実施する。 | 50件以上 | |
| | | 歯科用コーンビームCT撮影を実施する。 | 以降月10件以上 | |
| | | 歯科用コーンビームCTの画像診断報告書を作成する。 | 以降月10件以上 | |
| 8～9月 | 学会発表のテーマ決めと資料収集法を学ぶ。 診療科の通常業務を行う。 | 学会発表のための抄録を作成する。 | 1演題 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 月日 | 研修目的 | 研修内容 | 具体的な研修ノルマ | 備考 |
|--------|---|---|-----------|----|
| 10～11月 | 専門学会において発表を行う。 診療科の通常業務を行う。 | 学会発表内容をまとめて予演会を実施する。 | 2回以上 | |
| | | 学会発表する。 | 1回 | |
| | | CTの画像診断報告書を作成する。 | 以降月10件以上 | |
| | | 学会における研修会において放射線の物理的性質、安全取り扱いと管理の技術、及び関連する法令などの研修を受講する。 | | |
| 12～3月 | 論文投稿の準備をする。テーマを決め、資料の収集を行う。関連した抄読会の発表を行う。 診療科の通常業務を行う。 | 論文の選定、準備、発表を行う。 | 1回以上 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 2年目 | 研修プログラムに沿って研修項目を実施する。 | 論文を投稿する。 | 1回以上 | |
| | | 外部の勉強会、症例検討会に参加し、画像診断の精度を向上させる。 | | |
| | | 演題を持って学会に参加する。 | | |
| | | 学会における研修会において放射線の物理的性質、安全取り扱いと管理の技術、及び関連する法令などの研修を受講する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |